

(情報名) 中山間地域における大豆栽培には「タチナガハ」が適している

【要約】 本県の標高400m以上の中山間地域における大豆奨励品種に「タチナガハ」を採用した。この品種は安定して良質・多収であり、中山間地域における大豆作の高位安定化と産地化が期待できる。

中山間農業研究所・試験研究部・鍵谷俊樹

【連絡先】 0577 (73) 2029

【背景・ねらい】

本県における大豆の栽培面積は年々増加しているが、そのうち中山間地域では約20%が作付けされている。中山間地域における県奨励品種は、現在「エンレイ」が採用されているが、近年における登熟期間の高温・多雨条件による紫斑粒や腐敗粒の多発により生産性及び品質の著しい低下を招いているのが現状である。

このため「エンレイ」に代わる品種の選定を行う。

【成果の内容・特徴】

- 1 開花期は「エンレイ」より約2日、成熟期は約8日遅い中生品種である。
- 2 主茎長は「エンレイ」より3cm長いが強茎で倒伏に強く、機械化栽培に向く。
- 3 収量は「エンレイ」より主茎節数が1節多く、また大粒であることから多収である。
- 4 外観品質はシワ粒の発生が少なく「エンレイ」よりも良好である。
- 5 「タチナガハ」は全国でも多く栽培されている品種であり、用途は豆腐・煮豆等と広く、加工業者からの需要が見込める。
- 6 「タチナガハ」は今後とも、郡上・飛騨を中心とした地域での作付けを見込んでおり、安定的な収量・品質が期待できる。

【成果の活用面・留意点】

- 1 加工対象；豆腐等（主に、地産地消を実施している加工業者への販売）
- 2 普及地域；山間高冷地～中山間地域（標高400m以上を目安とする）

【具体的データ】

表1 タチナガハ特性表

		タチナガハ	エンレイ
播種期	月日	6. 0 8	6. 0 8
開花期	月日	7. 2 7	7. 2 5
成熟期	月日	1 0. 1 5	1 0. 0 7
主茎長	cm	6 6	6 9
主茎節数		1 3. 3	1 2. 3
分枝数	本	3. 8	3. 9
収量		3 9. 6	3 7. 9
収量比率		1 0 4	1 0 0
百粒重	g	3 8. 1	3 3. 4
花色		紫	紫
諸 抵 抗 性	蔓化	強	やや強
	倒伏性	強	やや強
	裂莢性	中	中
	紫斑病	強	中
	ダイズモザイク病	中	中
子 実 諸 特 性	皮ぎれ	微	微
	品質	上の中	上の下
	子実の粒形	楕円	楕円
	種皮色	黄	黄
	紫斑粒	微	微
	褐斑粒	微	微
	裂皮粒	微	微
	しわ粒	微	中
粗タンパク質含量	%	4 2. 3	4 4. 9
粗脂肪含量	%	2 1. 0	1 9. 9
全糖含量	%	2 0. 9	2 0. 2

注) 使用データ

平成12年～18年度奨励品種決定調査基本調査成績の平均

播種期 6月第1-2半旬、施肥 基肥窒素2kg/10a

畦間 75cm、株間 18cm、m²当たり株数 7.4本

研究担当者：鍵谷俊樹、久田浩志